

# ISMS審査を機にクラウドへの 遠隔地バックアップを実現した ソリューションは ■ ARCserve Backup。



## ユーザプロフィール

業 種：情報サービス業

会 社 名：日本ビジネスシステムズ株式会社

### 課 題

同社では、事業継続計画の一環として、重要システムのデータをテープにバックアップし、4週間に一度の頻度で外部倉庫に保管していた。しかし、その倉庫はオフィスに近いため、システムと同時に被災した場合はすべてのデータを失う恐れがあった。さらに、倉庫が無事だったとしても、テープから復旧したシステムは、最悪のケースで4週間前に戻る懸念があった。

### 経 緯

そうした中、同社は情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の審査を受ける。その結果、審査員からアドバイスとして、遠隔地バックアップの充実を推奨された。これを受けて情報システム部では関係部門と協議し、重要データの保護レベル向上に取り組むことを決断した。

### 導 入

このとき同社は既にクラウドを活用した遠隔地バックアップサービスを提供していた。サービスの中核となるデータ保護ソリューションにはCA ARCserve Backupを採用し、データの保管先となるクラウドストレージにはAmazon S3を利用している。そこで、今回の要件にこのサービスが合致することを確認し、社内システムに適用した。

### 効 果

同社では、クラウドへの遠隔地バックアップを導入したことにより、4週間に一度だった外部保管の頻度が日次となり、重要データの保護レベルが大幅に向上した。さらに堅牢なクラウドストレージにより全データ損失のリスク軽減も実現し、事業継続の対策を充実させた。そして ■ ARCserve Backupの簡単な運用は担当者の管理工数抑制に貢献している。



日本ビジネスシステムズ株式会社  
情報システム部  
部長  
田中 祐司氏

情報系インフラのワンストップ提供を強みとするシステムインテグレータ 日本ビジネスシステムズ株式会社(以下、JBS)では、ISMS審査時のアドバイスをきっかけに、事業継続計画としての遠隔地バックアップの充実を決断した。

同社では、このとき既にクラウドソリューション&サービス「Data Planet」のメニューとして Amazon S3を保管先とする遠隔地バックアップサービスを提供していた。このサービスの中核データ保護ソリューションには、他社製品に先駆けていち早くクラウド対応を実現した ARCserve Backupを採用している。

このサービスが要件に合致することを確認し、これを社内適用した。その結果、4週間に一度の頻度だった外部保管が日次ベースとなり、データ保護レベルの大幅な向上を実現した。

---

## 課題

### ISMS審査時のアドバイスを機に遠隔地バックアップ充実へ

これまで同社では、社内システムのデータバックアップを次のようなルールで行っていた。まず、すべてのシステムを対象に一次バックアップをハードディスクストレージに取る。そして、メールサーバ上のデータ、ファイルサーバデータ、業務システムのデータベースデータなど、一部のデータに関しては二次バックアップとしてテープに取り、外部倉庫保管を行う。バックアップスケジュールは、週末にフルバックアップ、日次に差分バックアップを実行する方式で、テープについては、4週間に一度外部倉庫保管のテープと社内保管のテープを交換していた。バックアップボリュームは、全体で数テラバイトに上る。

社内システムは順調に稼働しており、ファイル単位での復旧を除けば、テープに取ったバックアップデータからシステム復旧を試みるような事態はそれまで発生していなかった。しかし、情報システム部には1つだけ懸念があった。事業継続対策だ。保管場所である外部の倉庫は車両で容易に往来可能な距離にある。万一、広域で大災害が起こった場合、本番システムとテープの両方が被害に遭うと全データを損失するかもしれない、テープが無事だったとしても、それを利用したシステム復旧では最悪の場合4週間前の状態に戻ってしまう。

そうした中、同社は情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の審査を受ける。審査自体は何ごともなく終了したのだが、一人の審査員が今後のアドバイスとして、遠隔地バックアップの充実を推奨した。それはまさに情報システム部の思いと合致しており、実はデータの所有主体である業務部門もこれを望んでいた。そこで、同社は遠隔地バックアップのデータ保護レベル向上をめざすことを決断した。2012年夏のことである。

---

## 経緯

### データの二次バックアップ先はAmazon S3

実現にあたって、まず同社は要件を整理する。1つめはスモールスタートが可能であること。2つめはセキュリティレベルが高いこと。3つめサービスレベルが高いこと。4つめは利用コスト、運用コストが安価に抑えられること。

これを満たす遠隔地バックアップ先を探す中で浮上したのが、同社がクラウドソリューション&サービス「Data Planet」のメニューとして提供していた、Amazon S3をバックアップ先とする遠隔地バックアップサービスを利用するアイデアだった。

「Data Planet」は、企業情報システムの中でクラウドコンピューティング技術が要望されながら、セキュリティ、既存システムとの連携、運用面などさまざまな課題を抱えている点に着目、クラウド環境導入の事前アセスメントからシステム構築・移行、導入後のサポートまで、豊富なサービスメニューを提供するというもの。同社は

この中の遠隔地バックアップサービスを社内にも適用することにしたのだ。

このサービスでバックアップ先に利用しているアマゾン ウェブ サービスのクラウドストレージAmazon S3は、堅牢性99.999999999%、可用性99.99%を達成、高いセキュリティレベルは国際的なセキュリティ基準ISO27001やクレジットカード情報保護に関する国際基準PCI DSS レベル1などの第三者認証を取得していることから明らかであり、重要な企業データの保存先として同社の要件を満たしていた。

## 導入

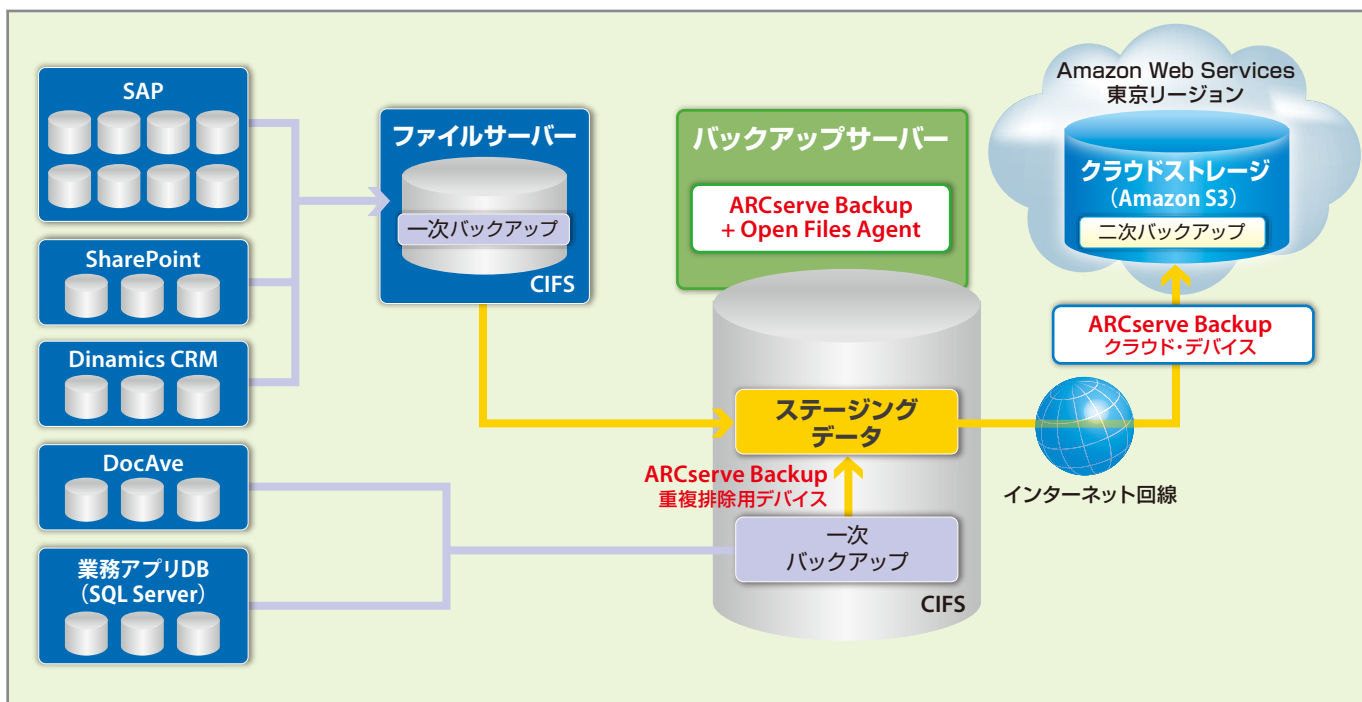
### アマゾン ウェブ サービス クラウドに対応した ARCserve Backupを選択

前述の遠隔地バックアップサービス構築において、中核のバックアップ機能をどのように提供するか、複数の製品候補を比較検討した際、同社がスポットライトを当てたのは ARCserve Backupだった。クラウドストレージ環境での機能検証において、基本的なバックアップ機能が十分であるとともに、従来のディスク・テープバックアップ運用と同様にバックアップ先をクラウドストレージに変更すればいいシームレスな使い勝手を確認。セキュリティについてもFIPS(米国連邦標準規格)のAES 256 ビットを採用、高度な暗号化機能を満たしていることから、この製品の選定を決定する。日本ビジネスシステムズ株式会社 マネージドサービス本部 マネージドサービスセンター クラウドサービスグループ マネージャー 寺本博久氏は、次のように語る。

「 ARCserve Backupは、バックアップソフトウェアとしてとても実績のある製品で、機能については大変優れています。弊社のお客様もよくご存知です。それが最新バージョンでアマゾン ウェブ サービス クラウドに対応し、さらにサービスに組み込みやすい月額固定のSaaSライセンス体系で利用が可能となりました。ARCserveの 24時間365日対応の充実したサポートサービスの存在も大きく、他にこのような製品は存在しなかったのも迷いはありませんでした」

サービスの提供イメージは、同社から ARCserve Backupを搭載したアプライアンスを提供し、そこで保管した一次バックアップデータをクラウドストレージに転送する。顧客のシステム環境で ARCserve Backupなど既にバックアップソフトウェアが導入されている場合は、データの転送機能だけを提供することも可能だ。

#### JBSにおける社内システム遠隔地バックアップ体制



## 効果

### 4週間に一度の頻度が日次に、サービスレベルは大幅向上

サービス構築時の機能検証工程で十分に時間を割いたこともあって、実際の社内適用は2名のエンジニアが担当して一週間ほどで完了してしまった。2012年11月には遠隔地バックアップサービスを正式にリリース。社内運用に関しては、サービスの受注体制安定を待ち、2013年に入って本格的に開始した。サーバ単位の移行スケジュールを組み、こちらは ARCserve Backupもサーバライセンス体系を選択。最初に対象としたのは基幹業務パッケージ SAPのデータベースに格納している業務データだった。このデータをバックアップサーバに一次バックアップし、その後にクラウドストレージへ二次バックアップする。バックアップスケジュールに変化はない。日本ビジネスシステムズ株式会社 情報システム部 部長 田中 祐司氏は、「Data Planet」遠隔地バックアップサービス適用の効果を次のように語る。

「パブリッククラウド活用は以前から模索していましたが、拍子抜けするぐらい簡単に始めることができました。これによって以前は4週間に一度の頻度だった遠隔地バックアップが日次ベースで実現しました。データ保護レベルが大幅に向上しています。情報システム部門の人間として、いつでも戻せる心理的な安心感は非常に高いですね」

さらに、部門内のバックアップ運用工数も変わっていないという。実は、既存のバックアップ体制は変えないというのは同部門の強い希望だった。変更すると途中のテスト工数が膨れ上がるからだが、一次バックアップデータをコピーするだけの簡単運用は担当者に高く評価されている。

#### ユーザ企業様プロフィール



#### 日本ビジネスシステムズ株式会社

日本ビジネスシステムズ株式会社は、東京に本社を置き、米国・中国・シンガポールにも事業所を持つ独立系システムインテグレータである。1990年の創業以来、ITシステムの設計・構築・開発・運用・保守・教育を、ワンストップサービスでエンタープライズ企業へ提供し続けている。特にマイクロソフト製品群については多くの実績があり、複数の分野においてマイクロソフト ゴールドコンピテンシーパートナーの認定を受けている。

■本社所在地／〒105-8578 東京都港区芝3-8-2 芝公園ファーストビル13F

■設立／1990年10月4日

■資本金／342百万円

■事業内容／ITコンサルティング、システムインテグレーション、ITサービス、アプリケーション開発

■URL／<http://www.jbs.co.jp/>